

パターンブロック教具活用報告書

平成23年7月25日

T小学校 F先生

1. 本校の概要

本校は、地区の人口増加に伴って新設された開校5年目の学校である。開校時は全10クラスであったが、現在は下記の通りのクラス数になっている。

1年…7クラス
3年…5クラス
5年…4クラス

2年…6クラス
4年…4クラス
6年…3クラス

計29クラス

1クラスあたりの児童数も37～40人で、全児童数は1067人。都内でも大規模な学校である。

また、心障通級学級も昨年度から新設され、現在は32人が他校からも通級してきている。

* 毎年の児童の増加と新設校ならではの教具不足があり、御社の教具支援システムを活用させていただき、クラスルーム A セットを2セット申し込み、3月末に教具が届けられた。

2. 教具活用状況 (4月～7月)

◎ 1年生 「いろいろなかたち」導入

まず指導したことは、教具の持ち運び方・扱い方・片づけ方である。1つの班(4人)で机を合わせて、一つの箱のパターンブロックで活動するようにした。

① パターンブロックの特色を知る (色・形・辺の長さ・一片の幅)

② 見立て遊び (6種類6個のブロックで作ってみる)



へび



さかな

③ タスクカードに当てはめる (しきつめ)



☆ 正三角形のタスクカードに対し、何パターンの形ができるかを問い、児童が取り組んだ。

◎ 3 年 生 「いろいろな形」 「数遊び」

パターンプロックに初めて触れる児童も多く、1年生と同様に、運び方・扱い方・片付け方の約束を確認した。

① パターンプロックに触れる（形・色など特徴を知る）

② 模様づくり（敷き詰め）



③ つかんで高さ比べ （パターンプロックの一片の幅を利用する）



④ タスクカードにあてはめる（しきつめ）



⑤ 数あそび （パターンプロックを数値に置き換えて、決まった数の模様を作る）

黄色（6）

赤（3）

青（2）

緑（1）

とみなし、例えば「20」の数で模様を作る

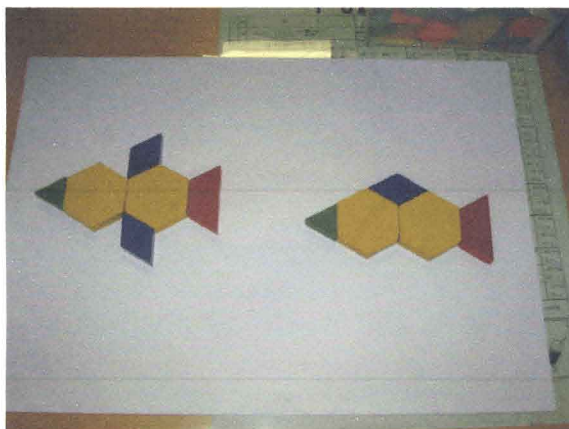
⑥ 班でドミノを作ろう



◎心障通級学級 (1年生)

* 空間認知が苦手と思われる児童に対して、パターンブロックで操作活動を行った。

◇教師が作った見本通りに作ってみると…。



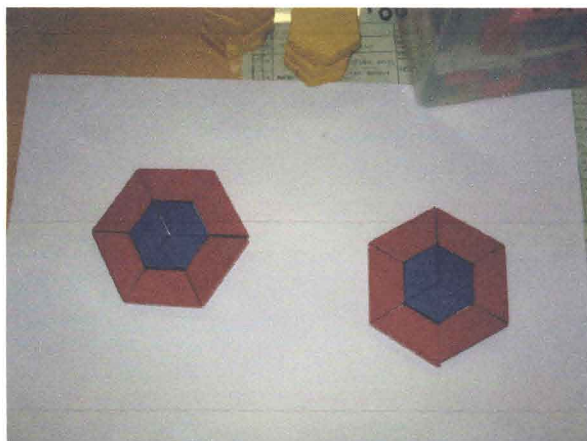
【 左＝教師 右＝児童 】

・ 「鳥を作ろう」ということで始めたが、写真のように、羽にあたる青のブロックの置き方に困難さが見られた。

* 「ななめに置く」という感覚が難しいようだった。

* 自力タイムの中で、児童自身が解決できるよう援助した。

◇同じ形であっても、児童から見た向きによって、認知度がちがってくる。



【左＝あまり時間がかからずにできた】

【右＝左と同じ構成であるにもかかわらず、なかなかできなかった】

* 児童から見て水平な線の部分は認知しやすかったようだ。

* 回転させることで見本の形になるという“柔軟性”が、他の面にも生かされる「転移・転用」ができるという感覚を養うためにも、パターンブロックは効果的であると思われる。

3. その他

前期は、教育計画の中の「図形」領域の学習が少なかったため、利用したクラスが多くなかったが、後期は「図形」だけでなく、九九など「数と式」の領域でも活用する予定のクラスがある。2セットあるので、学年別の活動にも幅ができると思われ、常備しておく部屋を用意するなどの活用も予定している。